



地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



医療と介護の連携

平鹿総合病院 副院長
地域医療連携室 室長 榎本好恭

日頃より地域医療連携室の業務にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、室長に就任し、近隣の診療所を36カ所、介護老人保健施設を3カ所、特別養護老人ホームを6カ所訪問しました。コロナ禍のなか、感染対策しつつの訪問となりましたが、高齢化著しい秋田の現状を垣間見たように思います。

当院での診療においても、ご高齢の方の割合が明らかに増えてきました。最近では“診療ガイドライン”なるものが存在し治療の参考にしますが、残念ながら高齢者を対象とした“診療ガイドライン”は確立しておりません。また、年齢だけでは判断できないことも多く、患者さんにとって最も適切な治療を選択することが難しくなってきた、と感じます。病気は治ったが、寝たきりになった、家や施設に戻れなくなった、では困ります。国は地域包括ケアにおいて、「ときどき入院、ほぼ在宅（または施設）」という体制を目標としていますが、その実現のためには医療と介護の連携は必須です。本年も、病院、診療所、介護施設に対して、当院との関係がより身近になるよう働きかけたいと思いますので、よろしくお願い致します。

もくじ

医療と介護の連携	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介	②
事務長・GRMよりごあいさつ	③
トピックス	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

節目を迎えて



醍醐クリニック
無江 良晴



お陰様をもちまして、醍醐クリニックは今年で開院から25周年を迎えます。日頃からお世話になっております諸先生方や関係者の皆様へ、まずはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

当院の患者は農業関係者が多いせいか80代後半～90代でも元気に暮らしている方が珍しくなく、長年働き続けて培われた皆さんの体力には今更ながら驚かされます。それでも院長である母の話では、開院当初の醍醐地域は高齢者の自殺率が他所に比べて抜きん出て高く、中にはろくに動けない筈な患者の飛び降りや入水自殺例とあったと聞いています。当時はまだ介護保険制度もなく、自身の病気に対する家族への多大な負い目が患者に自死を選ばせたのでは、と母は話していました。幸い私がこちらに来てからのここ数年間では先述のような話は耳にしません。患者の生活能力低下への対応や心のケアは、日々その重要性を増していると感じております。その為には、ありきたりな意見ではありますが基幹病院や診療所、各種介護福祉サービス施設間のスムーズな連携が不可欠です。

今後も地域医療の一翼を担うものとして微力ながら尽力して参りますので、皆様の御協力の程よろしくお願い致します。



あたり前の日常を待ちながら、あたり前の事を行っていく

コロナ禍の中、日々最前線で携わっておられる医療機関の皆様には心から感謝申し上げます。また当法人の保育・介護事業をご利用の皆様や、地域の皆様には、感染対策等のご理解ご協力を賜り、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

さて、皆様は普段の暮らしの中で「姿勢」を意識していらっしゃいますか。私自身は美しい行儀作法は苦手ですが、施設においては、その場面に適した姿勢を整える事を特に意識しております。ご自分で身動きする事が難しい方の場合、窮屈な姿勢のままでは、食事もうまく飲み込めず、むせやすくなります。その方に合った背もたれの角度、顔の向き、手はどこに置いたら楽なのかを考え、姿勢を整えるだけで、モグモグ・ごっくんと美味しく食べられる事が多くあります。横になって休んでいても、肘や膝の下など要所々々に枕やタオルをあてるだけで、ぎゅっと縮まった関節を少し楽に広げられるようになります。単純で基本的なことなのですが疎かにしやすく、しかし実に奥深く、あらゆる場面で必要とする介護技術です。安楽な姿勢は、健康な体を維持するためにも重要なことです。感染対策等で窮屈な日常ではありますが、少し肩の力を抜き、心の幅も広げてまいりたいものです。



社会福祉法人 相和会
特別養護老人ホーム
ビハーラ横手 看護師

鈴木 淳子



事務長・GRMよりごあいさつ

地域のためにそして地域とともに



平鹿総合病院 事務長

齋藤 光生



平素より地域医療連携室へのご理解とご協力を賜り、加えて「新型コロナウイルスと闘う医療従事者に敬意を」と横手市内外の学校関係及び各団体等から励ましのお言葉とともに多くの心温まるご支援をいただき心より感謝申し上げます。私は令和2年7月1日付で佐々木新事務長の後任として事務長を拝命いたしました齋藤光生と申します。平鹿総合病院が属するJ A秋田厚生連では「おもてなし」「癒し」「高度医療」「地域貢献」の4つの誓いのもと、「ホスピタリティ（おもてなし）」精神の醸成にむけた取組みを推進し、利用者の皆様に満足していただくだけではなく、一歩進んで、感謝・感動されるサービスの提供を目指しております。当院地域医療連携室におきましては、今年度のテーマを「地域に求められる病院をめざして」とし、榎本好恭室長を先頭に横手市・近隣市町村の診療所や介護施設等への訪問を行い、貴重なお話を伺うことができました。これを機にあらためて地域の医療機関の諸先生、行政機関、介護施設等の福祉関係者の皆様、そして地域住民の皆様とともに歩んでいきたいと考えております。今後ともよろしくお力添えのほど、お願い申し上げます。

大切にしていること



平鹿総合病院
医療安全対策室
医療安全管理者・看護師長

高橋 千春



医療安全対策室は、医療安全管理委員会で策定した指針に基づいて、組織横断的に病院全体の医療安全の向上を目指して活動する部門として設置されています。室長伏見副院長を先頭に総勢13名で構成されており、週1回のカンファレンスを実施しています。

私は、2020年4月に異動となり、4代目GMR(ゼネラルリスクマネージャー)として就任しました。様々な事象に対し、現場の声を聞き、たくさんの方々に支えられながら日々奮闘しております。その中で大切にしている事は、まずは「相手の話をよく聞き、誠実に対応する」ということです。これは、就任当初、佐藤看護部長に頂いた助言です。どう対応すればよいか？ 悶々と考える時が良くあります。そんな時には、まず相手の話をよく聞きます。そうすることで、自ずと道が開かれていくことを体感しています。誠実であるためには、「嘘をつかない」「自分の間違いを素直に認める」「約束を守る」これをモットーに院内で連携を図り、患者さんやご家族、職員に対する思いやりを忘れずに、「安全・安心」を届けていきたいと思っております。

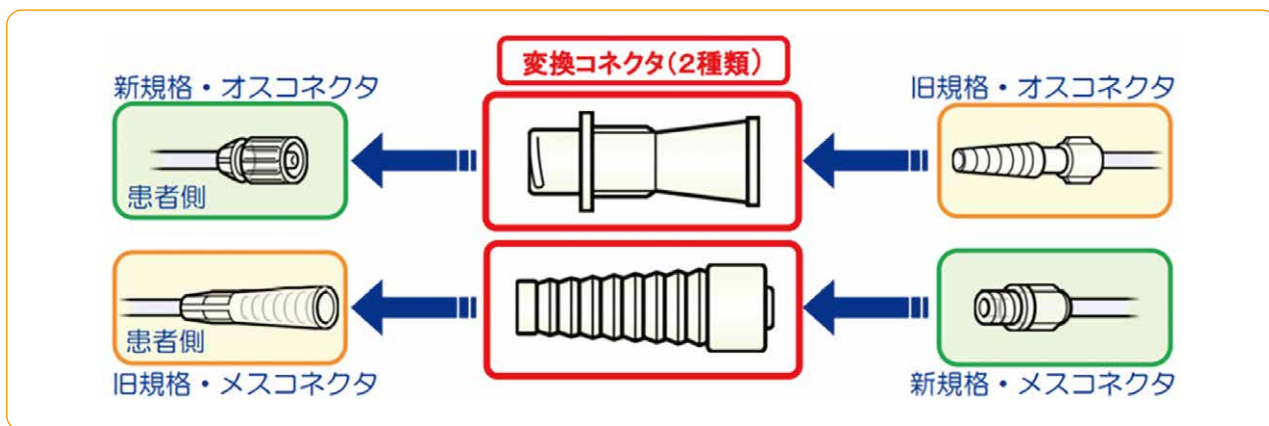
今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願い致します。

医療安全対策室からのお知らせ

〈経腸栄養分野でのご接続防止コネクタの導入について〉

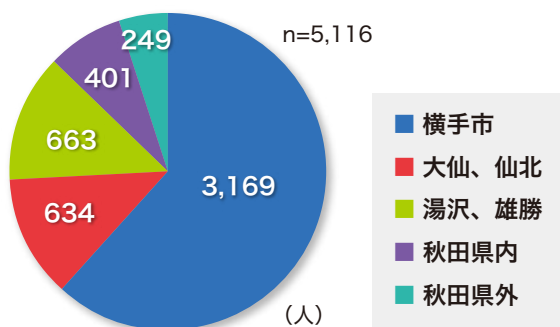
当院では、2021年2月末より経腸栄養分野での新規格製品への切り替えを行っております。旧規格製品の在庫は、使い切りを予定しています。完全切り替えには、もうしばらくお待ちください。

なお、当該患者さんの新規格製品と旧規格製品の接続には、「**変換コネクタ（新規格⇔旧規格）**」での対応をお願い致します。

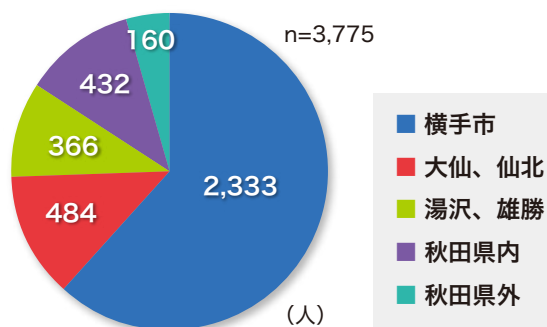


連携実績の報告

地域別紹介患者数 (R2.4月～R3.2月)



地域別逆紹介患者数 (R2.4月～R3.2月)



患者さんやご家族にとって安心した医療、看護、介護が提供できるように地域の皆様のご協力、ご支援をいただきながら地域に根差した病院づくりに努めてまいります。今後ともよろしくお願いたします。

地域医療連携室スタッフ

室長 榎本 好恭
副室長 堀川 洋平
看護師 大日向久美子
大沢 知佳
事務 橘 善幸
中嶋 秋子

平鹿総合病院

〒013-8610 秋田県横手市前郷字ハツ口3番1
代表 TEL:0182-32-5121 FAX:0182-33-3200
URL : <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

地域医療連携室

* 月曜日～金曜日(土日祝日除く) 8:30～17:00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通 TEL:0182-45-6012 専用 FAX:0182-32-0698
E-mail : tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp